

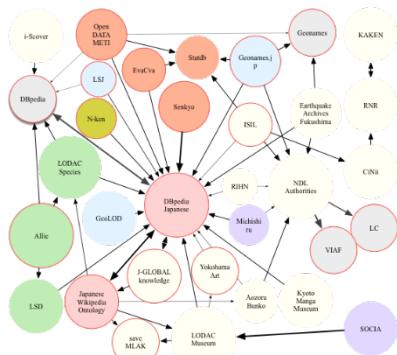
# モデリング・解析基盤整備 「e-サイエンス基盤技術」

## 目的

爆発的な勢いで増加しつつある研究資源および研究情報を研究者が理解し、分野固有の文化や空間的制約に妨げられることなく分野横断的な研究が促進されるよう機械が支援する「サイエンス3.0 基盤」を構築する。具体的には、日本の研究者情報を集約するresearchmapを構築。研究者や研究機関・学会に広くサービスを提供した上で、3つのサブテーマでの研究成果を反映していく。

## 研究成果

- サイエンス3.0基盤としてresearchmap(ver 1)を構築、日本の研究者35万のうち24万人に提供。研究情報のエコシステムを世界に先駆けて実現。
- Linked Academic Open Dataに関する日本唯一の研究プロジェクトを推進。
- 実文書解析のための文書解析手法の開発とツール公開。
- 融合研究促進のための科学技術文書の閲覧支援の研究を推進。SideNoterを開発し、言語処理学会等に全国大会論文閲覧システムとして提供。
- researchmapに名寄せ・LODAC等の研究成果を統合すべく「日本のIRのためAI」の仕様検討を開始（H27-）。高精度共著者同定を実現。



赤色はresearchmapのユーザーページにリンクされていることを示す("I"の中はリンクされたユーザーの氏名)

青色はユーザーページへのリンクがないことを示す (researchmapに登録されているかどうかは不明)

## 学問・社会的効果

- researchmap:24万人の研究者情報を集約するデータ基盤へと飛躍。
  - 京大・北大・高専機構ほか100機関以上がresearchmapを活用
  - 業績データ2千万突破
  - e-rad連携、URA事業と連動
- 日本のLODAC推進の中核として活動

## 今後の発展

- AI for IR  
LODによる高機械可読性のresearchmap2をH29年度リリース予定。AI技術により自動的に研究業績を集約。
- 政策のための科学の推進  
第6期の科学技術基本計画立案に必要なデータを提供



大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems